令和８年６月２８日開催　市長と語る！新タウンミーティングの概要

１　日程等
（１）開催日　令和８年６月 28 日（日）午後２時開会（午後３時 50 分閉会）
（２）会　場　別府公民館　ホール
（３）テーマ　市長の基本政策・令和８年度予算について

２　意見交換・質疑応答の概要
市民）
　私が一番心配しているのは、温暖化の進行です。熊谷が１位ではなくなりましたが、温度が下がっているわけではない。私達の世代は何とか生き延びているかもしれないけども、将来の若者が本当に住んでいけるのか。
　私も以前は温暖化防止活動センターの活動というのをやらせていただきました。何年か前に廃止になりましたけども、やはりそういう活動が非常に重要だと思っていますので、市の方で、行っていただきたい。
　それと今回、新しい清掃センターができるというお話もお伺いしましたけども、新しいセンターができるのであれば、ただ燃やすだけではなくて、例えば木の枝や葉っぱをリサイクルして、肥料にする施設を一緒につくるとか、できるだけごみの排出量を減らしていただければ、地球温暖化にとっても非常に良いですし、お金も掛からず、一石二鳥だと思いますので、ぜひ考えていただければと思います。
市長）
　今いただいた御意見を環境事業の方でうまく運用できるか、検討していけたらと思います。

市民）
　荒川公園周辺再整備のワークショップで、半分がスポーツ団体の連盟の方で、残り半分がスポーツをしない市民の方たちだったんですが、この間出てきた素案がスポーツ団体の意見ばかりが反映されていて、市民の意見は反映されていませんでした。
　もちろん私達の意見が全部通るとかそういうことは全く考えていないんですが、学識経験者の方で環境の専門の教授の方が、「まちなかにあのようなアリーナをつくったら、エアコンなどの排気熱が莫大で、それを川に向かって排出しても、川風で全て熊谷市内に流れてしまうということを無視してはいけない。」ということを言っていました。
　それなので大きさなど素案の見直しなどを考えていただきますようよろしく

お願いいたします。
市長）
　エアコンをつけると、どこにつくろうが、同じ熱は出てしまいますので、今、お話があったのは大きさについてということで意見として賜りました。

市民）
　新たに熊谷市に引っ越してくる方には、通勤手当の補助を出すという話を以前聞いたことがあります。それを熊谷で既に暮らしている方、例えば学生の方が就職なさったときに、熊谷から通っていただいて、熊谷で暮らしていただけるように、何か補助みたいなのを考えていただけたらと思いました。
市長）
　「大好き熊谷！新幹線らく賃通勤事業」という事業があり、30 歳未満の熊谷に住んでいる方が就職を新たにして新幹線定期券を購入・利用して通勤される場合、月額最大２万円の補助金を出させてもらっています。

（企画課）転入者への補助として「おいでよ熊谷！新幹線らく賃通勤事業」という事業があります。こちらは、40 歳未満で市内に転入し、住宅を取得し、新幹線定期券を購入・利用して通勤している方を対象に、月額最大２万円の補助を行っています。

市民）
　若い世代に「なぜそんなに都内に行きたがるのか」と聞いたら、「都内の方がおしゃれなお店とかたくさんあるんだよ」という話だったので、若い世代が来たくなるようなおしゃれな地域というのを、企業誘致に合わせて考えていただけたらと思いました。
市長）
　行政で具体的に店舗を誘致するというのは難しいと思っています。ただ、今回市役所をコミュニティひろばに持っていくのは、ある種の賑わい創出、熊谷市で一番、箱の中で人の多い企業が市役所だと思っています。新庁舎が真ん中に来る。あわせて、埼玉県立高等看護学院に約 300 人が通ってくれるようになる。そのことによってまず人がまちの中に出てきて、そこから今度は民間の仕事としてどうビジネスに結びつけるかという、次の波紋として広がっていくことを行政としては期待をしたい、そういう思いであの位置を選んだということも御理解いただけたらありがたいと思います。

市民）
　人口減で、子どもたちが減っていく中で、何年か前に小学校の統廃合の問題がありましたが、その後どうなったでしょうか。

市長）
　この地域について申し上げると、当初の計画では新堀小学校がターゲットでした。元々一つであった新堀小学校と玉井小学校を一つにすることはそんなにハードルは高くないだろうという見込みがあったと思いますが、新堀小学校は、駅の近くでアパートがたくさんあり、大体、同じような世代の人が出ていくと、また子育て世代が入ってくるということになり、これから 10 年 15 年後を見たときに新堀小学校の人数がそんなに変わらない。
　計画をつくったところからもう既に４、５年経っているわけですけれども、違う動きが見えてきました。ただ、籠原地区は、統合といっても、あと 15 年ぐらいはありません。
　籠原地域は今一つ問題があるのは、宅地がなくなってきています。お子さんだけの問題ではなくて、住宅政策にもこれから関わってくる問題だと思っています。学校の統廃合だけではなくて、住宅政策など根幹にある部分をしっかりと見ながら、今後検討させていただきたいと思っています。

市民）
　家の前の道路下を通る水道管がしょっちゅう漏水しています。工事には来ていただくのですが、車を出しておいたり、通行止めになったり、道路がつぎはぎだらけで水たまりになってしまい不便がとても多いです。
市長）
　改めて担当課の方に、しっかりと確認をさせます。

（水道課）水道管の漏水があった場合には、現地を確認しますので、水道課まで御連絡ください。

市民）
　自衛隊入口の交差点が日常的に４方向ともいつも渋滞しており、自衛隊の方から来る車は、陸橋の向こう側まで渋滞が続いています。
　国道 17 号の下りは、玉井小学校の方からずっと渋滞で左折レーンをつくっていただいて、良くなると思いましたが、歩行者用の信号も青になり、そこに人が通ると左折ができません。市の管轄なのか国土交通省なのか分かりませんが、そういう事情があるということをお話させていただきます。
市長）
　信号ですから基本的には警察の管轄になります。お話があったように左折レーンができていても、そこが例えば通学路で、お子さんたちが歩いていると、左に曲がりたい車がずっと曲がれず、結果それが渋滞になってしまう。これは四方全てそういう状況だと思います。だからといって、歩道橋をつくると、これはこ

れで別の問題があります。いずれにしても、関係機関と協議させていただき、それは後ほど御報告をさせていただきます。

（道路課）国道１７号は国、籠原陸橋は県、北側の道路は市が所管しています。また、信号については、警察の所管になります。いただいた意見については各所管部署と共有させていただきました。

市民）

市政を行う上で、人口を減らさないというのは、大変大事な行政だと思います。けれども、市長の説明では、具体的には外から人口を取り込むという言い方をされていたんですね。人口を外から取り込むというときに、熊谷市の競争相手はどこになるのかなと思います。

ターゲットを明確にした上で取り組んでいかないと、曖昧な人口行政になってしまうと思うので、しっかりとお願いをしたいなと思います。

また、医療関係で、熊谷市の医療機関でがんを見つけることはできるけど、最期まで治療することができるのかなということを考えたことがあります。

県北は特に医療過疎地域だと言われていますが、医療について、市としてどのように考えているのか聞いてみたいなと思いました。

市長）

医療については一番頭の痛いところです。埼玉県というのは 47 都道府県中、10 万人当たりの医師数が一番少ない、全国一の医療過疎県です。その上、県内の各地域によってまた医療格差があり、他地域と比べてこの県北は単位人口当たりの医師が少ない地域となっています。

そういう状況ではありますが、県北の医療の要になっているのは、熊谷市だと思っています。

市内には県立循環器・呼吸器病センターや熊谷総合病院など拠点となる病院があり、お隣の深谷市には深谷赤十字病院があります。医療体制については、他市の医療機関をはじめ、県北医療圏で連携し、相互に補完し合う体制が整備されています。また、救急医療については、太田市と協定を結び、安定的な救急患者受け入れ体制の構築を図っています。

ただ、そんな中で、少子化の話をすると、子どもが減ると、また医者も減るんです。要は人口が減ると、ものが全部どんどん小さくなってくる。ですから、人口を維持するというのは、もちろんお金、財政もありますが、市民に対しての医療も含めたサービスを維持していこうと思うと、現在の約 20 万人の人口を極力維持することが、皆さんにとって安心できる医療の維持にまずはつながると考えています。

市民）
　今、新堀で大々的に宅地造成をしているかと思います。そこに人口が入ってきて増えていくと、先ほどお話があった医療の問題ですとか、介護の問題、あと人が集える、「くまキッズ」のような施設が市のまちなかにはあるんですけど、こちらの地区にはなかなかない。そういった対応も今後必要になってくるかなとは思っておりますが、どのようなお考えがあるのか聞かせていただければと思います。
市長）
　新堀小学校と高崎線のちょうど間、今造成をしているのを御存知ですよね。熊谷市は、前市長のころにスマートタウンというのをスタートさせていただいて、私になってから今度はスマートシティ宣言もさせていただきました。その中で、「スマートエコタウン」というのをつくっていこうと取組を進めています。今、くまキッズの手前の測候所・気象台の通りに４軒できています。それで終わりにせず、新堀に土地を見つけてきて、約 100 軒、ここに住宅ができる予定になっています。



　また、先日の議会で、籠原駅の南口にある体育館の地続きの土地を議会で御承認をいただいて、買うことが決まりました。
　その活用というのは、体育館も老朽化していますので、体育館の建て替えがいいのか、西部生涯活動センターというのが、公共施設マネジメントの計画の中にありますので、第２中央生涯活動センターのようなものをつくるのがいいのか。できれば西部地区の皆さんからその中でも特に多い要望は「図書館が欲しいよ

ね」という声も聞いていますので、そういったものも考えながら今後計画をさせていただきたいと思っています。

市民）
　私が一番重要だと思うのは、若い人たちの意見を聞くということだと思います。若い人は自分が気に入らなければ、別にどこの市町村にでも行けるわけですよね。人口を維持するために一つの方法としては、こういったタウンミーティングも非常に大事だと思います。別に各地でやらなくても良いですが、各ブロックと各年代の人に、ある程度集まっていただいて、そういうあらゆる年代の方の意見を聞いていただいて、今後の市政に反映させるというのも一つの方法ではないかということで、提案させていただきます。
市長）
　この新タウンミーティングについては、10 か所を予定しています。ただあえて年代を限定してしまうと、「行きたいのに来られない」という方も出てきます。年齢は限定せず、オープンに意見を聞く場面というのはつくらせていただきたいということで、こういったタウンミーティングを開いていますので、若い方たちもぜひお越しいただけたらと思います。